

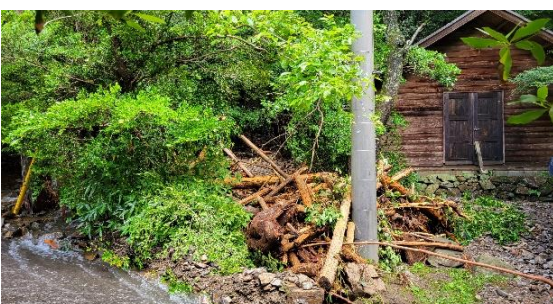
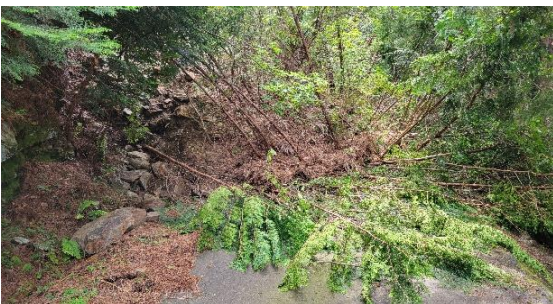
# 宮崎まちづくり活動団体情報



## 県道 岡崎 作手清岳線の復旧工事始まる(6月4日正午頃)

### ○東海地方を襲った台風や線状降水帯による記録的な大雨の被害の影響

令和5年6月2日(金)からの大雨は、愛知県東部地域や静岡県西部にかけて浸水被害や土砂崩れが相次ぎました。翌日には、台風一過の晴天となり宮崎学区全域で被害の確認や瓦礫などの片付けに追われました。2日午後3時ごろ、岡崎市内から茅原沢を抜けて宮崎学区へ帰ろうとすると、丸山町の通行止めの情報が入りました。まもなく明見町の県道浸水情報入電。明見町黒谷地内土砂崩落により通行止め。萩坂峠に向かうと、倒木2か所で通行止めの知らせが入りました。ついに、杣坂峠に向けて車を走らせ無事帰宅できたのが午後5時過ぎでした。途中乙女川の増水を眺め、京葉真空テクノさんや日晋岡崎工場さんを過ぎると冠水の跡がありました。記録的な大雨は、各地に大きな被害の爪痕を残しています。上記の写真は、黒谷の土砂崩落現場です。4日の朝から作業が始まったようです。早期の復旧を願いたいものです。萩坂の倒木処理には、行政区の違いから東三河土木建築事務所を通じた作業となりますが、早急な対応をしていただき4日正午には通行できたようです。作手へ向かう街道には、あちこちで岩石が散乱しています。しばらく不自由な生活となりますが、地域住民が助け合いながら早期の復旧を願いたいと思います。災害の危険性はしばらく続きます。無理をせず地域の人と一緒に行動するようにしてください。







【石原町自治会】

災害復旧作業を実施（自治会長 河合 正）

○県道の土砂や水路の掃除をしました



【教育環境部会】

歴史文化探訪委員会（委員長 清水力さん）

○地元住民限定の「雨山城址探訪会」を開催

5月20日（土）午前9時、雨山ダムに集合し「雨山城址を訪ねる会」を開催しました。地元「やまびこの会」からの情報で、地元にも雨山城址があるのに登ったことがない人がいるとのこと。雨山城址を訪ねる人が増えているのに地元が知らないのは良くないことから、今回の企画となりました。大雨河地区内に案内を出したところ、15名の参加がありました。もちろん、地域おこし協力隊の松田（旧姓服部）さんの参加もありました。

今年の5月は、週末に雨が降る傾向でしたが、当日は爽やかな風が吹く五月晴れに恵まれ、絶好のウォーキング日和となりました。はじめに雨山ダムの東屋で、講義を行いました。講師は、歴史部会探訪委員会の権田幸雄さんです。参加者は、雨山城址の資料を見ながら大河ドラマ「どうする家康」の解説を織り交ぜながらの説明に、興味深くその話を聞いていました。その後、菅沼定村の墓、雨山合戦地の碑、定村の兄弟の墓及び雨山合戦で亡くなった人々の墓を歩いて回りました。

それから、案内看板から林道に入り、雨山城址（砦跡）まで登りました。そこでは、青天と新緑の山に広がった景色が有り、涼しげな風に幟旗がそよいで、気持ちよかったです。眼下の東側には風越峠及び雨山ダム、西を見れば工業団地や雨山町の道路の一部並びに北を望めば「天使の森」が見えて最高でした。地元住民との思い出深い探訪会となり、昼前には雨山ダムで解散としました。

○雨山城址で記念撮影



【くらがり活性化部会】

くらがり活性化実行委員会（委員長 菅沼弘さん）

林野庁の「日本美しい森 お薦め国有林」に選定されている「闇笥風致探勝林（くらがり溪谷）」を紹介する撮影動画が3月末にYouTubeにアップされました。素晴らしい映像（約11分）ですので、皆様も一度「闇笥風致探勝林」で検索してご覧になっていただければと思います。

○テイカカズラ



これを機にくらがり溪谷の植物について再勉強をしていきたいと思っています。その初めとして、くらがり溪谷の代表的な植物の一つである「テイカカズラ（定家葛）」を紹介します。資料には、「テイカカズラは日本原産のキョウチクトウ科のつる性常緑低木。開花時期は5月中旬ころ（丁度今ごろですね）。7月ころいったん花は途絶えるが、その後新しい芽が出てきてまた開花する。花はスクリュー型の変った形。おいしそうな香りがする。生垣にも使われている。キョウチクトウ科の植物は有毒物質を含むと言われているので口に入れないよう注意しよう。また、樹液で肌がかぶれることもあるので触るときは気を付けよう。花言葉は【依存】、【優雅】【優美な女性】【爽やかな笑顔】」などでした。

その独特ともいえる名称の由来ですが、「定家とは平安時代の歌人・藤原定家のこと。定家は後白川法皇の皇女である式子内親王に恋焦がれていたが、片思いのまま式子内親王は49歳で亡くなってしまい、失意のまま定家も寿命を迎えた。その後ある時京都を旅していた僧侶の前に女性が現れ、式子内親王の墓に案内した。見ると墓石に蔦葛がびっしりとまつわりついていた。女性は、藤原定家は死後も式子内親王を想う執心で葛となって内親王の墓に絡みついてしまった。内親王の霊は葛が墓石にからんで苦しんでいるらしいと話した。僧侶はこれを知り、内親王の成仏を願って墓の前で読経した。じつは先ほどの女性は式子内親王本人の霊であり、僧侶が読経してくれたことで成仏できて喜んだ。このことから後に「定家葛」の名前が付けられた」とのことでした。そんな由来があったのかと自分の無知さに気づかされたとともに、より一層植物に興味をもたらせてくれたテイカカズラでした。

【サイクリングの郷づくり委員会】

ロードクリーン事業（委員長 井畑俊治さん）

○5月28日県道 岡崎清岳線（田原坂）のごみ拾いを実施

